赤崎義則鹿児島市長退任式

職員ら功績称える

5期20年、鹿児島市政を担ってきた赤崎義則市長の退任式が22日、鹿児島市役所で開かれ、初の市職員からの市長として勤め上げた功績を称えた。また、本館玄関前で行われた退庁セレモニーでは女性職員から花束を受け取り、多くの職員が見守る中、市役所を後にした。

職員が見守る中、市役所を後にする赤崎市長＝鹿児島市役所で

退任式で赤崎市長は「昭和24年、鹿児島市に入庁以来、皆さんとは固い絆で結ばれ私を理解し、支えてくれたことに感謝する。持てる情熱、体力、気力のすべてを市政に傾け、思い残すなく去ることはこの上ない幸せ。私は常々一歩先んずる市政を訴えてきた。いつの時代も常に挑戦することを忘れず、明るくたくましく発展していく市政で悠久歴史に向かい、大きく歩いていくことを願う」と途中、感極まり声を詰まらせながら、別れの言葉を述べた。これに対し戸川堅久助役が「触れ合いと真心の市政で、全身全霊を捧げてこられ、厳しい財政環境のもと、健全財政を維持し全国的に高い評価を受け、鹿児島に赤崎ありの名声は誇りである。余力を残してさわやかに退任することはこの上ない喜び。長い間ありがとうございました」とねぎらいの言葉を贈った。

このあと、市長室にて森博幸新市長との事務引き継ぎ式を行い、最後に「私の人生は市政そのものだった。市政に携わって55年、市長としての日々はまさに幸せそのもの。非常に厳しいときに求められることは、チャレンジ精神を忘れず市政に対する限りない愛情で、市民に応えていくことで道は開ける。鹿児島市は全国に誇れる行政、財政を確立している。これもすべての力と情熱で成し遂げたこと。自信と誇りを持って森新市長のもとで頑張っていただきたい」と市長としての最後の言葉を送り、多くの職員らは大きな拍手で赤崎市長を見送った。

南薩縦貫道「川辺道路」起工式

安全な完工を祈念

地域高規格道路南薩縦貫道「川辺道路」の起工式が22日、川辺郡川辺町神殿で県をはじめ南縦貫道路建設期成同盟会員、同安全協議会員、来賓の国・県市町議員、地域関係者ら約150人が出席して実施、全員で同事業の安全な完工を祈念した。

安全祈願祭では、伊藤祐一郎県知事（代理・脇田稔副知事）、松下忠洋衆議、川原秀男県議会議長、東展弘川辺町長、霜出勘平南薩縦貫道路建設期成同盟会長、大坪稔明南薩縦貫道「川辺道路」安全協議会長らが、次々と神前に玉ぐしを捧げた。

神事の後、隣接地で行われた起工式・祝賀会の冒頭で脇田副知事が「この整備が薩摩半島並びに県行政に大きく寄与される道路として、一日も早く供用されることを祈念したい」と挨拶。続いて、事業の概要について濱田行弘県加世田土木事務所長から説明された後、国土交通省九州地方整備局の岡本博道路部長ら来賓から祝辞が寄せられた後に全員で乾杯し、工事の安全を祈念した。

協議会を代表して、神前に玉ぐしを捧げる大坪安全協議会長＝川辺町の現地で

同事業は、起点を鹿児島市、終点を枕崎市とする高規格道路「南薩縦貫道路」（計画延長約40㎞）の整備区間のうち、起点を同町神殿地区に、終点を同川添地区までとする約7㌔（実延長6・5㎞）の第1種第3級自動車専用高規格道路として、13年度から測量調査設計、用地買収をはじめとした事業に着手。その後、事業計画区間内の折戸平、堂薗、鳴野原、古殿諏訪陣などの4遺跡の埋蔵文化調査などを平行して進め、16年度から本格的な整備がスタート。完成時期は平成20年代前半を目指し、現時点での事業費は130～140億円程度を見込んでいる。

日置中央地区、廃置分合申請

来年5月1日「日置市」へ

日置中央地区（東市来、伊集院、日吉、吹上）の構成4町は22日、鹿児島市の県庁で廃置分合申請を伊藤祐一郎県知事に行った。これで、17年5月1日を目標に新設合併し「日置市」が発足する。本県では8例目の申請となる。

申請を行う4町長ら＝鹿児島市の県庁知事室で

申請は下茂孝一東市来町長、宮路高光伊集院町長、井上幸一日吉町長、横山宏志吹上町長が出席し、立会人らが出席して宮路町長が「新市名が日置市と決まり、今日を迎えることができた。今後、5月1日の合併に向け足並みをそろえていきたい」と言葉を付け加え、伊藤県知事に手渡された。

新しく誕生する「日置市」は、現在の伊集院町に置き、庁舎に総合支所を置く総合支所方式で地域審議会を設置する。面積は252・97平方㌔㎡。人口5万3391人（12年国勢調査）の自治体となる。新市まちづくりの基本理念は、地理的特性と歴史や自然との調和を生かした触れ合いあふれる健やかな都市づくりを目指す。

今後のスケジュールとして、17年1月に総務省への市制施行協議を行い、同年3月に県議会での廃置分合議案審議を経て、可決した場合は知事による廃置分合決定で総務大臣への届け出を進め、同年4月総務大臣による廃置分合告示の後、同年5月1日の合併となる。

FPグループ九州　鹿児島・宮崎県支部16年度支部会

目標棟数へ向け全力

FPグループ九州鹿児島・宮崎県支部（支部長・前屋敷茂㈱住まいの前屋敷社長）は21日、鹿児島市の市勤労者交流センターで16年度支部会を開いた。出席した会員らは、今年度のFPの家建設実績を踏まえ、今後の販促活動のあり方など運営方針について話し合った。

今後の運営方針等について話し合った支部会＝鹿児島市の市勤労者交流センターで

会の冒頭、前屋敷支部長が「充実した活動を行っていくためにも情報交換は大切。厳しい業況が続いているが、来年へ向けて意義ある会となるよう期待します」と挨拶。事務局からは、16年度の実績が11月末現在、目標棟数の約40％と報告され、残り約3カ月間での販促活動の推進を促した。

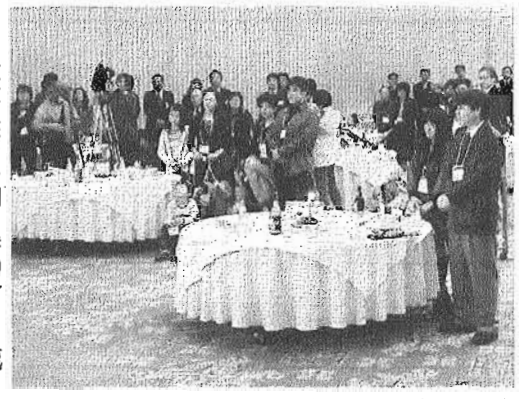
続いて、FPグループ九州の矢野雄士会長が、全国、九州地区における活動状況や今後の課題等について説明。「全国での事業が地方部まで伝わっていない現状を踏まえ今後、一般会員からの意見、要望を吸い上げて連携を図っていくことが必要」としたほか、「他地区を訪問するなど勉強会も積極的に行っていくべき」などと今後の活動のあり方について述べた。また、17年4月から同支部と熊本県支部を統合し、新たに南九州支部として活動展開していくことも報告された。

カナダプレイス　クリスマスパーティー

華やか、和やかに親睦

㈱カナダプレイス（岩下克己社長）は19日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルでクリスマスパーティーを開き、在福岡カナダ領事館やカナダ協力団体、協力業者ら約400人が出席、これまでの業績の推移等を振り返るとともに、1年の労をねぎらった。

同社は、平成13年11月に南九州で初めての輸入住宅専門企業として設立。その後ベンチャー企業として成長を続け、名実ともに信頼される企業として業績を確実に伸ばしている。今回のクリスマスパーティーは、設立3周年の記念式典並びに懇親会として、これまで支援と協力をいただいた関係者に感謝の意味を込めて開いたもの。



主催者挨拶を聞く参加者ら＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

同日は、岩下社長が「顧客満足度の追及を第一の目標に、これまでやってきたことが順調な業績の推移につながっているものと感じています。これからも、売上や棟数等ではなく、顧客が満足するものを提供し続けたい」と挨拶。このあと、カナダ領事館アンドレア・クレメンツ領事が日本の印象について、特に九州は海や山、川などの自然がとてもきれいであると述べ、「カナダではクリスマスは家族と過ごす日であり、家族のきずなを確かめ合っている」と日本とカナダのクリスマスの違いを説明し、メリークリスマスの言葉で祝辞とした。

パーティーが始まると、クリスマスツリーやトナカイ等の色とりどりのイルミネーションを囲み、華やかで和やかな雰囲気の中、懇談を深めていた。また、同日はカナダワインを片手に終始にこやか笑顔が会場一杯にあふれていた。

照国神社表参道通り会

きょう、歩道リニューアルイベント

20日に国道225号・照国地区歩道整備が完成したことに伴い照国神社表参道通り会（代表者・中原国男中原別荘社長）はきょう23日午前11時から、鹿児島市照国町で「歩道リニューアルに伴うイベント」を開く。

当日は、豚汁（限定200食）やグッズ（同）の無料配布のほか、オープンカフェ出店やワゴンセールなどを予定。

なお、完成式典等は実施しない。

購読料のお支払いは
お手軽で便利な
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ